

〈座談会〉

## 日本外交に注文する

—日中関係に即して—

岡崎嘉平太

(全日空社長)

西 春彦

(元駐英大使)

松村謙三

(衆議院議員)

松本重治

(国際問題評論家)

〔聞く人〕

内田健三

(共同通信政治部)



内田 きょうの座談会は、日中貿易の現段階がどういう状態にあるかということから入り、日中関係全般、各国の中国に対する見かた、あるいは中国自体のもっている問題などをお話いただいたうえで、日中関係を中心に、これからの日本外交のありかた、基本的な姿勢についてお話しただけだと思います。

## 日中貿易はどこまで進んでいるか

内田 はじめに、昨年松村先生が中国を訪ねられ周恩来総理とお話合いになり、そのうえで高崎達之助さんとここにお見えの岡崎先生がおいでになって、いわゆる、「高崎・廖覚書」ができたわけですが、この高崎・廖覚書の初年度の話合いが現在進んでいます。そこでまず岡崎先生から、この初年度の商談の話し合いの進みかたについてうかがいたいと思います。

岡崎 覚書に書かれた貿易がどのくらいまで進んでいるかは、いま進行中のものもありますから、集計してみなければわかりません。しかし八〇%にはいったと思います。決めたとおりにはないかかないものですから、これはよく知っているほうだと思いますね。あと残っている中で大きいのがビニロンのプラント輸出なんです。これについてはあの協定のときに、日本政府と十分打合せていないものですから協定の中でもちょっとまま子扱いになっっていてむずかしい問題もあったのです。ところが向うに行ってみるところがたいへんな熱望なのですね。そして、

し、これは人民大衆の広い反帝闘争で達成できると中国は考えている。

### 社会主義国と核兵器

人民の力をこのように重くみる中国は、核兵器に頼った政策を社会主義の側で採用することにも反対である。「社会主義諸国はもともと核兵器に賭けたり、それで他国の人民を脅したりする必要はないと考えている。もしそんなことをしたらほんとうに冒険主義の誤りをおかすことになる。もし核兵器を盲信し、人民大衆の力をみることができず、またそれを信頼しなければ帝国主義者の核兵器による脅しにあわてふためき、おそらく一方の極端から他方の極端へはしる可能性があり、降伏主義の誤りをおかすことになる。」(六二年一月一日「人民日報」)という。陳毅外相は『毎日新聞』記者との会見で「核兵器保有は二次的な問題で

ある。中国の政策は核兵器を持つかどうかで決まるものではない。その問題でわれわれは別にあわてることはない。」(六二年九月二六日「毎日」)と語っている。

### 核兵器保有の意味

ではなぜ核兵器を持つのか。前にも述べたように中国の指導者が核兵器を不必要な兵器だといったことはない。あればあったで人民勢力の力がそれだけ増大すると考えているに違いない。ただ核兵器にしろその他現代兵器にしても、人間の力に比べれば二義的だといっているのである。まず第一に人民の力に頼る。中国の経済力、科学技術にまず第一に重点がおかれる。それとのバランスをみて、国防建設にも資金を投じる。核兵器の開発も行なわれる。中国が核兵器を持てば中国に対する軍事攻撃の可能性は一層少なくなる。核兵器の効用

は一層低下する。核兵器の効用が減り、核戦争防止の可能性が一層増大し、核兵器禁止の条件が増大する。陳毅外相は六二年一月、訪中日本記者団に「すでに核兵器を持つている国が核兵器の拡散を防止しようとするのは不公平である。大切なことは核兵器をなくすことである。核兵器を持つ国がふえれば、最終的に核兵器をなくす条件が生まれてくる」とみている」(六二年一月九日「朝日」)と語っている。

中国は米ソの核独占によって平和を維持するだけでは、核兵器を禁止する条件が生まれないと考えている。米ソの話し合いで核戦争を避けるという考え方にも賛成していない。それはニセの平和であり、「共産諸国を自由世界の大家庭にひきこむ」ケネディ世界政策の一面に過ぎないとみているからである。

# 現代帝国主義講座 全5巻

井汲卓一・今井則義・宇高基輔・江口朴郎・吉村正晴 編集委員

わが国第一線のマルクス経済学者の総力を結集し、中ソ論争に典型的にみられる現代帝国主義の中心的諸テーマを、レーニン『帝国主義論』を再検討しつつ、解明する。

▼第1巻・第2巻・第5巻発売中、 定価各六五〇円

- 第1巻 現代帝国主義の理論と構造
- 第2巻 現代帝国主義の運動と展開
- 第3巻 現代帝国主義と社会主義
- 第4巻 日本帝国主義の構造
- 第5巻 現代帝国主義の経済法則

日本評論新社

京新宿須賀町14/振替東京16番

第3巻 発売中